
魔法先生ネギまを荒らしに来た男

シトラスぱふえ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギまを荒らしに来た男

【Nコード】

N7579T

【作者名】

シトラスぱふえ

【あらすじ】

平凡な大学生のだったハズの俺“羽川 静”に訪れた突然の事態。

受け取ったのはレイハさんもどき

手にしたのは魔法の力

魔法先生ネギまを荒らす者……… 始まります

この小説は魔法先生ネギま!の二次小説です

はじまり（前書き）

こゝこいつ……動くぞ！？

シトラス、処女作を投稿する

はじまり

「そなた、転生せよ」

……それ何てテンプレ？

そう思わずはいられない俺こと羽川 静は月四万、オンボロアパートの自室で天ぷらうどんを啜っていた所存。

いきなり14くらいの美少女が部屋に現れたんだから、さっきの発言も頷けるはず。

「どうした？何故に口を開けて呆けておる」

つかこいつ一体どっから入って来たよ。

右を見る。鍵は掛かったままで玄関は閉鎖されている。

左を見る。窓は空いてるけどここ二階だし、ベランダないし。

……………。

なる程、貞子ですね。わかります。

「うむ、流石に無反応は困――」

「お願いします助けてください。」

真剣土下座。お化けとか勘弁してください。つかマジ物なら泣く。その前に漏らす。

「い、いきなり積極的になったの」

命には変えられんです。あ、こっち見ないで、目があったら死んじやうから止めテ！

「うむ、なら話は早い。」

そう言うやいきなり発光しだした貞子様。

ブワッとなった瞬間貞子様の花園の番人が捲れ上がって見えたが命が惜しいのでスルー！

「水玉とか俺得過ぎだ」――」

思わず口に出たのは仕様。

.....

「と言う夢を見たんだ」

「そなたが何を言ってるか解らん.....」

現実逃避しゅーりょー。貞子様の発光が収まったと思ったらいたのは自室ではなく、何処ぞのオフィスルーム的场所。

「さて、あまり時間をとるのもなんだし、パツパとするかの」

何を？

いやその前に何されるのよ。
つか、家にか・え・せ！

「そなた、“魔法”を知っておるか？」

え？何そのカミングアウト。
こちらら只の大学生よ？

「レイハさんですね、わかります」

取り敢えず返答。星を砕く砲とか……ワクテ力過ぎるでしょ

「レイハ？なんじゃそれ？」

「星だろうが人間だろうが関係なく飲み込むペンダント方インテリ
機械」

「ふむ、少し失礼……」

ふいに近付いてきて俺の頭を撫でボする貞子様。身長の違いからか
少し背伸びして頑張る姿がグッジョブ過ぎる。

「なる程。大体は解った、それくらいなら許容範囲じゃ」

そつ言うやまたもや貞子様が発光、今回は右手のみだが。

「ほれ、こんなかんじじゃろ？」

「おおー！！」

貞子様の右手には赤いルビーみたいなのが乗っていた。まごうことなきレイハさんについついテンションが上がる。

「貞子様すげえ、もうあれだ、ハイブリッド貞子様だ」

「貞子？誰じゃそれ。妾の名は“ルカ”音神と名高い上級神じゃ」

へへ、神様か。なる程なる程。

「つまりアレか……色々と一周廻ってテンプレか」

天ぷらうどんだけに……くくっ、上手いこと言った。

「別段上手くもないし、それはただのダジャレじゃ」

もはや神と名付く者達が心を読めるのは仕様のようだ。プライバシー保護もつと仕事しろよ。

「んで……そろそろ良いツスカ？」

先ほど食った天ぷらうどんが腹に響いているんでそろそろおいとましたいなり。

「意外とせっかちじゃの……詳しい事は聞かんで良いのか？」

詳しくって何をよ？

今はそんなことよりトイレに行かせてください。一応一般並の羞恥はあるので漏らすと俺に明日はない。

「取り敢えず（トイレに）行ってから考える」

キリッとしてみるが正直限界です、はい。

「そうか、詳しい事はそのレイハに聞けば良い。………頑張ってく

るのじゃぞ」

神様に快弁を許された。

再三光りはじめた神様、レイハさんはプレゼントみたいだ。神様ナイス。

「やはり水玉は良いものだ——」

そして俺は光に包まれた。

はじまり（後書き）

うわぁ……これは酷い。

面白くしようとした努力が全て空回りしてる……よし、死のう。
もし少しでも興味が出たら偶に顔をだしてやってくだされまし

いちわめ（前書き）

投稿システムに四苦八苦なシトラス。

そして初感想に狂喜感激雨アラレちゃん。

秋代様、あざーすっ！！

いちわめ

光が収まる。目を開ける。見渡す。

「……あるえ？」

それが一言目。

そりゃそうだ、目を開ければ築二十年、月四万のボロアパート。通称、マイルームに居るはずが現在はどう考えてもマイルームじゃない場所にいる。

つかぶつちゃけ森だった。

「一体どうなつて——」

人間、衝撃的な事が起きた時には数瞬フリーズしてしまうのはしょうがないこと。

だが、フリーズから戻ると人はあるべき時を取り戻す………まあつまりは

「はうあつー!!」

普通に腹痛です。誰か助けて。

「あの〜」

遂に幻聴が聞こえ始める。くそ、いつその事漏らすか？幸運な事に周りには誰もいない。勝つる！神はまだ見放してはいなかった！！

「えっと……マスター、いますよ。私がここに、ほらここです」

いかん幻聴が増してきた。マジで漏らす五秒前。しかし、さっきからやけに首元でチカチカして眩しい。

首を動かし見下げる。

「あ、ども」

レイハさんがいた。いや、喋るレイハさんがいた。なんと二度目の驚愕。便意が軽く収まったなり。

「うわぁ……りある」

精一杯の一言でした。

チャポン……

アレから色々と驚愕の事実が発覚したが、流石に便意が限界突破。
現在は便器に座り、快樂快弁と共に状況を把握中。

勿論、見渡す限り木、木、木の場所に運良く便器（洋式＋水洗付き）
なんてあるわけもない。

つまりは……

「この便器はワシが作った」

「まさか、初めての能力仕様が便器作りになるとは思いませんでしたよ」

そう、何やら俺には創造する力があるとかないとからしい。

流石はハイブリッド。神様は伊達じゃないらしい。

他にも色々と神様が能力付与してくれたらしいが便意に勝る物なしって事で割愛。

ところで

「なんで神様は俺にこんな能力くれたんだろうな？」

「……………」

赤いルビーみたいな筈なのに、何故か口をあんぐり開けてる様に見える。

どうでも良いが、森のど真ん中で便器に座っている男ってシユールだよな。

ぶつぶつとえ？何で理解してないの？とか、この人にこの世界任せ
て大丈夫なんですか？とか聞こえてくるがスルーしよう。

いちわめ（後書き）

何事も始めたばかりは全て“ミスしちゃった”てへっ”でなんとかなる筈↑

と言う訳で投稿。

スク水に栄光あれっ！！

にわめ(前書き)

まさか今日3度目の訂正……

一体何がしたいんだ俺は…… orz

にわめ

粗方腹に溜まっていた物をトイレの神様にぶち込み爽やか爽快な気分のこと数分、レイハさんにより色々と全貌が明らかになった。

「と言うか、ここまで全ての話に便について関わっていることに泣けてきました」

ふむ、俺とて小坊の頃は良く思ったものだ。何故女子は全洋式なのか、少くらしい男子に分けても罰は当たらないと思うと。

更に学校に二つしかない男子用洋式便器の内一つが大破という革命が起きる。これにより我が校は未曾有の大戦に――

「とつと閑話休題してください」

むう、つれない

まあ、あまり長話する話でもないので閑話休題。

取り敢えずレイハさんによる証言で解ったことは

・どうやらここは異世界

・俺は創造の力その他諸々を獲得

・この世界には魔法があるらしい

因みにレイハさんに何で俺がトリップするハメになったのかと聞いたら

「マスターは2日後に死んでしまう予定だったからです」

.....

う、うわぁ。冗談じゃうず〜

顔がひきつってただろうがしょうがないこと。

「いえ、マスターは2日後にあのアパートで震度2の地震に合い、倒壊した建物の下敷きになり死亡する筈でした」

ナンテコッタイ！確かに地震とかきたらイチコロだろうな〜とか思
ってたけど震度2で倒壊とか既に中国レベル……

ん？しかし、まで。良く考える。

「何故に神様は俺を助けたんよ？こう言っちゃなんだが俺なんてと
るに足りない一般人よ？それに神様って平等じゃないといかんだろ」

俺一人だけ特別なわけにもいかない。悲しいけどコレ、現実なのよね

「あの地震がルカ様とマスターの住んでいた地域の地脈神とのケン
カが原因で起きたものだからです」

………ん？

「いくらお二人共が力を抑えていたといわれても上級神。マスター
のいた現世にも影響を及ぼした訳です」

「まあ影響を及ぼしたと言っても、冷静になったお二人により加護
の術がなされたので死傷者は0になる………筈でした」

うん、半分以上理解出来ないけど続けて。

「何故かマスターのアパート限定で加護の術が効かず、老朽化も相成って倒壊。唯一の死傷者でイレギュラーが……」

「俺？」

またしてもナンテコッタイ！！

「そして、この先の人生を断たれたマスターを憂いだお二人がこの異世界に転生させた訳です」

なる程、結局一周廻ってテンプレでしたまる

「つまり転生トリップですねそーですね」

「まあそうなりますね。因みにさっきも言った通り能力付加もばっちり完了です。さあ！世界征服しましょう！」

何故かよくわからないテンションのレイハさん。流石は魔王の相方、考え方がパンピーな俺には思考が追いつかないとです。

「んで。……結局ここ何処よ？」

一生続くんじゃないかと思う森を一瞥。

「マスターがいるこの世界は『魔法先生ネギま!?!』になります。
そしてここは新世界の デビリングフォレスト 。通称 魔王の森
と言われている森ですね。ワクテカしちゃいます!!」

ワクテカしません。そしてただか森の名前に厨二とか（嘲笑）作
者のボキヤブラリーの無さに全俺が泣いた（爆）

「ネギまと言うとアレか、パンツでクマパンでパイパンでスク水で
すね解ります」

友人宅で一巻を拝読。当時中学生だった俺がストーリーを吹っ飛ば
しパンツチラリなシーンしか読まなかったのは若さゆえの過ちと言
う他ない。

「そして作品は知っていてもストーリー知らないから何においても
先読み出来ない罨」

でもしょうがないと思うんだ！だって思春期だったんだもの！！

「どうしても良いですかマスター。冷静に前を向いてください」

思春期というきっかけにより若かりし頃のブラックヒストリー（黒歴史）を思い出し一人自己嫌悪に陥ってた俺はレイハさんの一言で顔をあげる。

グルルルルルルル

一つ言っておくが今のはお腹の音じゃない。嗚呼しかし腹が減ったなあ……。母ちゃん。今日の晩飯はハンバーグがいい！

「マスター、現実逃避もほどにしてくださいね。そのトカゲ

もどき！かかってきなさい！！魔王の殲滅砲杖と言われた私が相手になってあげます！！」

バッチこーい！なレイ八さんに言われ現実を直視した。

ガアアアアアアアアアアアアアアアアアッ！！！！

めのまえにどろこんがいた

こんでいにゅー？

はい

いいえ

↓へるぷみー

にわめ（後書き）

訂正しました

逆からよんでも訂正……にならない罫
↑

詰んだ＼（＾ー＾）／

再度吼えるドラゴン様。唾が俺（と便器）の周りにポタポタと落ちる。

きつと彼（？）はこう言いたいんだろう

「今めっちゃ腹減ってんだけど飯食いに行かね？」

そうきつとこんな感じのノリだ。

「現実逃避してないでしっかりしてくださいマスター。
と言うか今まさにレアにされそうですよ！」

焼き方はミディアムが至高。

そう言おうとして視線をドラゴン様に戻すと口を開き何かを溜めて
いる様子。欠伸？

「どう考えても丸焼き五秒前ですね」

ガアアアアアアアアアアアッ！！！！

「いやああああああああああっ！！！！」

吐き出される炎、叫ぶ俺。

現状、パンツすら降ろしている俺は文字通り丸裸。いや、一応上の服は着てるけどこのままじゃ塵とされそうな感じだ。

「あゝあああああつつゝううううう……くない？」

目の前に広がる赤い灼炎。例え俺じゃなくても“終わった”と思うだろう。

しかし、俺の人生はまだ終わってない事実。無根。……ウコン？

「意味が分からない現実逃避しないでズボンを履いてくださいマ
スター」

首に掛かったレイハさんがキラリと光りそう言う。
だが残念。まだズボンは履けないんだ。

「何故です？」

「紙がない」

俺にはケツに生暖かな違和感を残したままズボンを履くだけの決意
は、ない。

「最低ですね……ごほん」

「最低ですね」

あまり意味のない言い直しをされた。

「と言うか、想像の力でさっさと作れば良いのでは？」

……便利だな、想像の力。

「…………くっ、はぁぁぁぁあっ！！！」

目を閉じ、想像する。知覚で、視覚で、嗅覚で、感覚で、触覚で……っ！？

「あゝぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

利き腕の右腕を左手で掴み、集中する。右腕は眩く光り、輝き、照らす。

「ぐっ！！……はぁぁぁぁぁ！！……がつ！！！」

見つける！情報を！カタチを！想像する！

「はぁ……はぁ……」

光りが収まった右腕。息が整わない俺。しかし、俺は掴んだ。

「手に入れたぞっ！……トイレットペーパーッ……！」

「……あの、別にそんな頑張らなくても出ますよ……。トイレットペーパー」

……大切じゃね？様式美？

さんわめ（後書き）

久々に更新＆生存報告

と言うか久々の更新で何が書きたかったか意味不すぎるw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7579t/>

魔法先生ネギまを荒らしに来た男

2011年12月12日08時47分発行